東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009 年 5 月 29 日

衣装、身なり

親愛なるムスリムの皆様。人を最も美しい形で創造されたアッラーは、人がこの世界でも幸福で安らぎに満ちた生を送ることができるよう、いくつかの原則を定められました。この原則の一部は、衣装、身なりに関するものです。

体を覆うこと、衣服を身につけることは人間の本質的な特性である一方で、同時にそれは宗教上の命令でもあります。宗教上の命令であるからこそ、その境界線は個人的な欲求や流行、伝統、そして社会に完全に委ねられているわけではないのです。イスラームでは、礼拝の際に覆うことが義務とされている部分は、他の人の前でも覆うことが守るべき務めとされています。従って男性はへそとひざの間、女性は手と顔と足以外の部分が、覆うべきところとなります。女性たちのこの覆い方は、父親、祖父、叔父などの近い親戚のそばでは義務とはされません。体の中のこれらの部分は、結婚することが可能である相手の前で、覆うことが必要となるのです。

覆うことに関するクルアーンの言葉において,(御光章第 31 節、部族連合章第 59 節)女性たちはスカーフを首とのどの部分も覆う形でかぶることが命じられ、この命令については現在までどのイスラーム学者によっても異なる見解が出されていません。従って女性は顔、手、足以外の全てを、適切な衣装で覆うことが義務とされている、という点に関してはイスラーム学者の間での見解の一致、すなわちイジュマーが存在しているのです。

親愛なるムスリムの皆様。衣装において根本的なことは、体を覆うことです。そのため、暮らしている地域の気候や天候の条件にあった服装を選ぶことができます。ただ、衣服は体のラインをはっきりと見せないゆったりしたものであること、そして内側が透けるような薄いものではないことが必要となります。衣装や身なりに関して、社会の伝統や習慣から生じる相違は、イスラームが定める基準に従ったものである限り、受け入れられてきました。しかし、十字架のような他の宗教のシンボル、象徴であるものを身につけること、そのような衣装を着ることはよいことではありません。なぜなら服装は、同時に人が持っている信仰や世界観を反映させるものであるからです。服装において男女の区別に留意しているイスラームは、男性用の衣装を女性が、女性用の衣装を男性が着ることは適切ではないとしています。（ブハーリ、衣装、61）

女性が金の指輪をすること、絹の衣装を着ることには問題はありませんが、男性の場合は、健康上の理由などといった重要な訳がない限りは、金の指輪をはめたり絹の衣装を着たりすることは預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）によって禁じられています。（ブハール、衣装、25、27、30、45;アブ・ダーウード、衣装 3）

よい身なりでいることは、衣装を身につける目的の一つです。（高壁章第 32 節）実際預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は「アッラーはしもべに与えられた恵みの作品を、彼の生き方においてご覧になることを望まれる」（チルミズィ、衣装 806）と仰せられました。ただし、恵みを用いる場合は見せかけや浪費を避ける必要があるのです。

「信仰する者よ、アッラーと使徒の呼びかけに応えなさい。アッラーが（使徒を通じて）あなたがたを（現世と来世で）生かすために呼びかけたときは」（戦利品章第 24 節）また次のことを忘れないでください。

「信仰する男も女も、アッラーとその使徒が、何かを決められた時、勝手に選択すべきではない。アッラーとその使徒に背く者は、明らかに迷って（横道に）逸れた者である」（部族連合章第 36 節）